

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	幸区第2グループ(南加瀬・小倉・北加瀬)	評価対象年度	平成26年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	こども支援室長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	幸区こども支援室

2. 事業実績

利用実績	1 南加瀬こども文化センター ①年間延べ利用者数 33,128人 ②年間延べ利用団体数 648団体 2 南加瀬小学校わくわくプラザ ①登録者数 181人 ②年間延べ利用者数 11,303人 3 夢見ヶ崎小学校わくわくプラザ ①登録者数 177人 ②年間延べ利用者数 12,697人 1 小倉こども文化センター ①年間延べ利用者数 28,024人 ②年間延べ利用団体数 272団体 2 小倉小学校わくわくプラザ ①登録者数 232人 ②年間延べ利用者数 15,057人 3 東小倉小学校わくわくプラザ ①登録者数 209人 ②年間延べ利用者数 14,414人 1 北加瀬こども文化センター ①年間延べ利用者数 30,993人 ②年間延べ利用団体数 194団体 2 日吉小学校わくわくプラザ ①登録者数 451人 ②年間延べ利用者数 27,509人
収支実績	単位:円 1 収入 指定管理料 143,923,027 2 支出 人件費 118,016,881 事業費 7,671,158 事務費 14,454,530 その他経費 0 合計 140,142,569 3 差引 3,780,458
サービス向上の取組	各種アンケート、意見箱、日常的なコミュニケーションにより、利用者のニーズを把握し、イベント内容や遊具等の購入など、事業活動に反映。事業者のスケールメリットを活かし、施設整備、交流事業等を実施。

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	順調に事業の推進が図られているか	10	4	8
		事業計画に基づき、こども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか			
		こども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか			
		わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか			
	(評価の理由) 幸区内こども文化センター合同行事の一つとして実施した職業体験を通じて社会のしくみを学ぶ「さいわいキッズシティ」は、昨年度参加者より10%増やすことができ、中学生ボランティア19名を含め215名の参加があった。幸区第2グループ事業については、例年実施している「キャンプ」で、子どもたちの希望を取り入れたゲームを用意したほか、各館の代表の子どもたちがハッピーミーティングで企画し、「ハッピートレジャーハンティング」を実施した。各館では、乳幼児事業を定期的に実施するなど力を入れているほか、季節ごとの多数のイベントを実施した。特に小倉こども文化センターは、児童健全育成財団が主催する「児童館にこいのぼりがいっぱいプロジェクト」に東日本大震災後、継続的に参加しており、全国の児童館が出場する「カブラ大会」へも出場を市内で唯一果たしている。各イベントは、運営協議会や地域の方々、多くの中高生のボランティアと協働し世代間交流、異年齢交流、地域との結びつきを深めるなど充実した内容であった。また、各館とも広報に力をいれた結果、特に中学生の利用が大幅に増えている。各わくわくプラザについては、学校の協力を得ながら、放課後の安全で、楽しい居場所となるよう工夫しつつ着実に事業を実施し、利用者の増加や障害児の利用状況等に応じスタッフを適宜配置するなど、一定程度柔軟な対応を図ることができている。				
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理及び金銭管理をしているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づき適切な支出をしているか	5	3	3
		効率的な執行等、経費縮減に具体的に取組んでいるか			
		サービスの水準を確保しているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
(評価の理由) 会計処理及び金銭管理について適切に行われている。全20グループを管理している運営法人のスケールメリットを生かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品・備品の一括購入等の取組みによる経費削減を図るとともに、その剰余金を児童用図書、空気清浄機、わくわくプラザ用トランシーバー、わくわくプラザ児童用ビブス等の備品購入やこども文化センター外壁への名称記載、窓ガラスへの飛散防止フィルムの添付等施設の整備・修繕による環境整備に充て、利用者に還元している。					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか	5	4	4
	利用者への対応	利用者に対するサービスが適切にされているか	5	3	3
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか			
	運営協議会の実施	こども文化センター運営協議会を実施しているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか	10	4	8
(評価の理由) 毎月のお便りやパンフレット、中高学生向けの広報を作成し、関係機関に配布するなど、積極的に広報しているほか、ホームページをリニューアルし利用案内や施設ごとの行事・活動等の周知を積極的に行った。特別な配慮を要する利用者については、保護者や学校等の関係機関と情報交換を密に行い、巡回相談員の定期的巡回を受け、個別の対応についての理解を深めている。また、研修等で職員のスキルアップを図り、児童の人権を尊重しつつ適切な対応を行っており、各行事への参加なども含め、安全安心な居場所を提供している。各学校、PTA、青少年指導員、地域教育会議等と連携し、地域の青少年に係る情報共有を図るため、各行事等に積極的に参加・協力している。また、区保健福祉センターや社会福祉協議会等との連携のほか、区の事業である「日吉のわっ」と「ひと月遅れのお正月」「子どもと一緒に！防災講座」等の各行事に参加し地域の方との交流・連携を図った。特に幸区こども支援室と協働し、父親の育児参加を促すため、幸区第2グループ内3か所のこども文化センターの土曜日開所を活用し、子育て支援講座(パパっつとサタデー)を毎月1回開催し、地域の子育て支援に貢献している。こども文化センター運営協議会、子ども運営会議、保護者懇談会の定期的な開催だけでなく、各行事後のアンケートや利用団体、地域ボランティア、館内の意見箱の意見などから、児童・保護者・地域の方々の意見や要望を収集し事業・施設運営に反映させている。また、こども運営会議を発展させ、グループ内各館から計44名の小学生が参加し、スポーツ&ゲーム大会を企画する「ハッピーミーティング」を開催し、子ども達の要望・企画を事業に反映させている。					
組織管理体制	適正な人員配置	児童福祉施設最低基準第38条の規定に従い職員を配置しているか	10	3	6
		こども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どおり人員を配置しているか			
		川崎市公契約条例を遵守しているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む)	10	4	8
個人情報等の取扱	個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか	5	3	3	
(評価の理由) こども文化センター及びわくわくプラザ共に、適正な職員配置がされており、特別な支援を必要とする児童については適宜スタッフの配置を行い円滑な事業運営が行われている。市主催の研修にも積極的に参加しており、財団、区、グループ、各館で必要とされる各種研修を状況に応じて企画・実施し、受講した研修の報告場を設け情報の共有化を図るなど、職員全体のスキルアップを図っている。個人情報等の取扱については、適正に管理しており情報漏えい及び紛失等の事実はなかった。					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障を来すことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保する体制(マニュアル等)を整備しているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応をしているか			
		感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯のための工夫をしているか	5	4	4
		災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか			
		災害発生時に確実な対応・行動を取るための取組をしているか			
(評価の理由) 施設の日常点検、設備の保守点検、備品管理等を適切に実施し、必要な補修工事を適宜に実施している。安全点検マニュアルや事故対応マニュアルの作成、全職員が日本赤十字による応急手当研修の受講、アルコール手指消毒剤の配備、スタッフに対するインフルエンザ予防接種の補助など、事故防止及び感染症予防等の衛生管理に、積極的に取組んでおり、大きな事故はなかった。各こども文化センターで工夫を凝らし、「安全マップ」作成を実施し、子どもたちの地域の安全への意識を高めた。消防設備点検、消防避難訓練を実施し、災害対応マニュアルを作成し、職員に周知している。かわさき市民活動センターが運営するグループで初めて、こども支援室と「避難・情報伝達訓練」を実施し、各わくわくプラザからこども文化センターを経てこども支援室への情報伝達を夢見が崎保育園のMCA無線を活用するなど実地で確認し、反省点の改善を進めている。こども文化センターに24年度に設置した発電機の試運転、防災用品の確認を実施するなど、災害時対応、防災体制の強化に努めている。					

4. 総合評価

評価点合計	70	評価ランク	B
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

長年、こども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に携わった経験を活かし、学校、地域、行政等と連携し、安定した施設運営を実施している。また、全20グループの指定管理者としてのスケールメリットを活かし、全市、区、グループでの合同事業を実施するとともに、予算の一元管理により施設ごとに偏りのないサービスを提供しつつ、経費節減を図り、剰余金で備品の充実や施設的环境整備・改善を図りサービス向上に努めている。 また、グループとして参加している幸区事業の「日吉の「わっ」～日吉のタカラモノを次世代につなげるネットワーク～」の各事業、運営協議会あとの共催の「こども文化センターまつり」や「もちつき」は、地域の団体や住民と子どもたちの世代間交流の場となっているなど、地域性を活かしている。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

引き続き、こども文化センターについては、地域に根付いた安全で安心な施設となるよう環境整備や職員のスキルの向上に努め、職員と子どもが顔の見える関係を築き、中高生を含めた様々な年代の子どもたちが安心して居場所となるよう工夫し、利用者にとって居心地のよい場となるよう努めていただきたい。また、市民活動の拠点施設として、幅広く利用されるよう取り組んでいっていただきたい。 わくわくプラザについては、放課後の安全・安心で楽しい居心地の良い居場所となるよう環境整備や職員のスキルの向上に努めていっていただきたい。
